

令和 6 年度 第 3 期 論文式刑法試験問題

受験上の注意事項

- 1 監督者の指示がある前に、この問題を開くことを禁止します。
- 2 試験開始の合図により、解答を始めてください。この試験では、六法を貸与し、その使用を許可します。
- 3 試験開始の合図の後、印刷不鮮明等に気付いた場合は、黙って手を挙げ、監督者に申し出てください。
- 4 解答は、答案用紙に黒インクのペン又はボールペンにより書いてください。
消せるボールペンや時間の経過により字が消えるボールペンは使用しないでください。また、鉛筆は不可です。
- 5 試験時間は60分です。
試験開始後20分以内及び試験終了前5分間は、答案の提出及び試験室からの退出はできません。それ以外の時間に退出（途中退出）する場合には、黙って手を挙げ、自席で答案及び問題を監督者に渡してから退出してください。
- 6 この問題は、試験終了後、持ち帰ることができます。
- 7 次のもの以外は机上に置かないでください。
受験票、筆記具、時計（計算機能等のないものに限る。）、眼鏡。
受験票は、氏名、受験番号が記載されている面を表にして、監督者が見やすい位置に置いてください。なお、上記以外のものについては、監督者の許可を得てください。
- 8 問題検討のためのラインマーカー及び色鉛筆の使用は、問題用紙に限り認めます。
- 9 携帯電話等は、必ず電源を切って鞆等にしまってください。
- 10 試験室内では、耳栓の使用はできません。
- 11 試験時間中の発病等やむを得ない場合には、黙って手を挙げ、監督者の指示に従ってください。
- 12 試験時間中の喫煙や飲食（ガム等を含む。）は、禁止します。
- 13 試験終了の合図とともに、直ちに筆記具を置き、監督者の指示を待ってください。
- 14 不正の手段によって試験を受け、又は受けようとした者に対しては、試験を停止し、合格の決定を取り消すことがあります。

〔刑 法〕

次の〔事例〕を読んで、後記〔設問〕に答えなさい。

〔事例〕

甲は、祈祷により病気を治療することができる特別な能力があると標榜していたが、これ信じたAから、Aの父親であるBが脳内出血で倒れて重篤な状態で入院中であり、甲の力で何とか父親を助けて欲しいと懇願された。そこで甲は、Aに対し、「私が祈祷で治してあげるから、直ぐにBを退院させ、私が滞在しているホテルに連れてくるように。」と指示したため、Aはこの指示に従い、退院は適切ではないと警告するBの主治医の反対を押し切ってBを退院させ、甲の滞在するホテルに運び込んだ。

甲は、Bの容態を実際に見て、それまで考えていた以上に重篤で、このまま医療措置を執らなければ死亡する危険があると思ったものの、退院させた自己の指示の誤りが露呈することを避ける必要があったため、Bに対し祈祷をただけで、生命維持のために必要な医療措置を何ら受けさせないままBをホテル内の一室に放置したところ、Bは、ホテルに着いた翌日、脳内出血に伴う気道閉塞により窒息死した。甲の滞在するホテルは都市部にあり、付近には医療機関が複数存在し、Bはホテル到着時に必要な医療措置を執ればほぼ確実に救命可能であった。

〔設問〕

〔事例〕における甲の罪責について、具体的事実を摘示しつつ論じなさい（特別法違反の点を除く。）。

